

基礎経済科学研究所 自由大学院

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第862回ゼミ報告] 2023年7月21日号

大雨が九州に又々被害もたらし、続いて東北に大雨の連続し、河川が氾濫し多くの住宅地が浸水。一方で猛暑日の連続。地球の温暖化によるのか…  
7月12日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』第2部「世界史の構造と「力」」第1章「ギリシア・ローマ(古典古代)」を竹内さんの報告で行いました。マルクスは来るべき共産主義を氏族社会の高次元での回復と見て、モーガンの「古代社会」への研究が共産主義を交換様式から見直すこととなった。ギリシアは氏族社会を超える国家を形成しなかったが、ローマは市民権を諸部族・諸民族にも与え、「帝国」になるとともに、キリスト教を国教とすることで帝国に不可欠な構造へと変容していったが、やがて西ローマと東ローマに分割された。さらに報告者から、以下の3つの論点が示された。第1に、唯物史観の現代的理解について、経済学批判の単線の段階論に対し、アンダーソンによる複線的視座から複線的視座の提示はどうなるのか、さらに奴隸制と農奴との区別はどうか。第2に、柄谷の未来社会に基底にある未開性とは何か、何を回復すべきか。第3に民主主義の起源・成立の基盤は何か。討論では、生産様式の段階論、すなわち産業資本主義→独占資本主義→国家独占資本主義という段階論はソ連からの論だったし、経済学批判の定式：奴隸制・農奴制・資本制=賃労働という段階論も同様で、これに対して日本には半封建性というコミンテルンの論が持ち込まれ、講座派・労農派の対立が生まれた。これらの段階論については、マルクスの晩年の古代社会やアジア・アメリカなどの共同体研究から見直す必要がある。ただし、その点で柄谷が古典・古代としてギリシア・ローマのみを論じることに問題がある。これについては、マルクスのサズリーチへの手紙や、アンダーソンの論説が重要になってくる。すなわちマルクスと単線モデルとの問題である。柄谷のA・B・C・Dのモデルは時代順ではなく、A・B・Cは同時代に並列で存在すると考えるべきだ。そのうちの賃労働についても時代的に常に存在するが、それが支配的かどうか重要である。「力」は向こうから来る、とは何か。柄谷はヘーゲルの「世界精神」を説くがこれは初期の論である。  
会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの7名でした。

\* 7月26日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。  
・オンライン情報 Zoom: ID: 838 7260 5770 パスコード: 467824

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

7月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第5章 グッドバイ・レーニン 報告高田  
9月13日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
柄谷行人『力と交換様式』第2部 2章 封建制(ゲルマン) 報告小野さん  
9月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第6章 コミュニズム・・・ 報告者未定  
その後 10/11, 10/25, 11/8, 11/22 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755  
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso